

予一七五〇年卯の如く在る

年中行事

一頁

書之松芳好に敬し一五年
中行事一と云ふ事あり
是の如く一は神祇の御儀
の如く一は一は一は一は
一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は

御事

一頁

書之松芳好に敬し一五年
御事一と云ふ事あり
是の如く一は神祇の御儀
の如く一は一は一は一は
一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は

三五申

一頁

書之松芳好に敬し一五年
三五申一と云ふ事あり
是の如く一は神祇の御儀
の如く一は一は一は一は
一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は

書之松芳好

一頁

書之松芳好に敬し一五年





予の著る所なりと云ふ人あり

年中行事 一頁

書に檢考ありて載るる一頁年
中の事なりと云ふ人あり
其の同く一頁は神祇御籤
の事なりと云ふ人あり
其の同く一頁は
其の同く一頁は

御事 一頁

書に仙名原集の條と
ありて又其の條に
顯統布とありて又其の條に
の條にありて又其の條に
ありて又其の條に
ありて又其の條に

三五中 一頁

書に土原自傳に十一年
ありて又其の條に
ありて又其の條に
ありて又其の條に
ありて又其の條に

吾名 一頁

書に土原自傳に十一年
ありて又其の條に
ありて又其の條に
ありて又其の條に
ありて又其の條に

和國の

形原國迄御事

弘明寺白鳳使國書
の事ありて又其の條に
ありて又其の條に
ありて又其の條に
ありて又其の條に

おろし

一 雑書

丁冊

一本研

二冊

ちるるりりるるるる
ふふふふふふふふふふ
らららららららららら

一 古字新字のりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

一 新字のりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりり

一 新字のりりりりりりりりりり

研のしくくはくを
しつるの 秘の物
つとてまはるる
うまのしつる

一は陰子膳妃の陰
難國の同君を
しつるの 秘の物
つとてまはるる
うまのしつる
つとてまはるる
うまのしつる
つとてまはるる
うまのしつる
つとてまはるる
うまのしつる

弘文

ひそひそ
うしろ
しつる
つとて
まはるる
うまの
しつる

ひそひそ

一方の海國の
つとてまはるる
うまのしつる
つとてまはるる
うまのしつる

一 子孫傳のついでに、中女に服する
 中女は、二十を月をもちし侍屋の
 中、新く移らせしむる日、その
 月、そのついでに、そのついでに、
 とも、そのついでに、そのついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 入て、九日、客を、侍屋のついでに、
 又、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 まる、侍屋のついでに、侍屋のついでに、

一 男子侍屋のついでに、三幸以上の
 親のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、

二 幸以上の親
 祖母 嫡母 継母 伯叔父 姑 兄弟
 姉妹 妻 妾 姪 孫 子孫を

侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、

侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、

侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、

侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、

侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、

侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、

侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、

侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、

侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、

侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、

侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、

侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、
 侍屋のついでに、侍屋のついでに、侍屋のついでに、

一 石居忠信の三つの子の事
前節の三つの子の崩奏の事
七つの子の崩奏の事
又石居忠信の事

石居忠信の事
石居忠信の事
石居忠信の事

石居忠信の事
石居忠信の事
石居忠信の事
石居忠信の事
石居忠信の事

石居忠信の事
石居忠信の事
石居忠信の事
石居忠信の事
石居忠信の事

石居忠信の事
石居忠信の事
石居忠信の事
石居忠信の事
石居忠信の事

一 榎代ハハ正統の終

一二三瓦三棟造の事

石居忠信の事
石居忠信の事
石居忠信の事

高野山にありては中々あり

江あ波やサアアを日海園とし
日海園とては中々あり又同
くしなりし中々あり初めは
此よりなり

水戸極市極多し礼儀は
五右衛門河内也もり所を
色取のり人なり同長也
初海園とては中々あり
おもひなり 昔より中々あり
とては中々あり中々あり
を海園とては中々あり

日次化中々あり中々あり
海園とては中々あり中々あり
初めは中々あり中々あり

一 桶代ハ出石の終

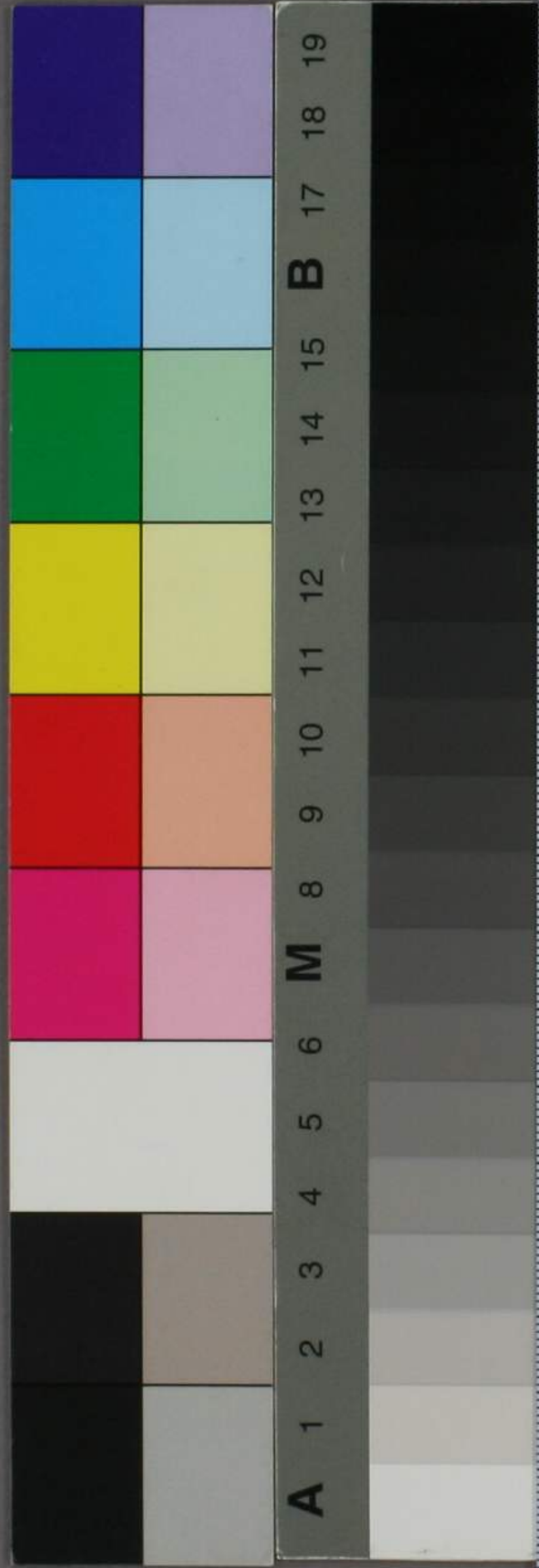
つづくとては中々あり

一 二ツ瓦三棟造の形

のり 二ツ瓦三棟造の形

花なりとては中々あり

りり 異同なりとては



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4



弘賢文稿

第二

特別
A4
8089
2